

北海道教育大学函館校

第4号

江差ソーシャルクリニック ニュース

3年目に入ったコロナ下のSC活動



平素より江差ソーシャルクリニック(江差SC)の活動に対するご理解とご協力をありがとうございます。江差SCは、大学と町民の皆様が一緒になって地域課題を解決していこうという取り組みです。

江差SCの活動に大きな影を落としている新型コロナウイルス感染症は、3年目に入っても収束が見通せていません。今年度も感染症の動向を睨みながらの活動になると思われます。今号では2021年度下半期の活動についてお知らせします。町民の皆様のご理解とご協力のおかげで一部の事業を実施することができました。心より御礼申し上げます。引き続き、活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター センター長 齋藤 征人
江差SCプロジェクトチーム 代表 古地 順一郎

観光の経済波及効果をとらえよう! 担当:藤井 麻由

江差SCでは、観光がもたらす経済波及効果を可視化(見える化)するお手伝いをさせていただいています。江差町のまちづくりにおいて、観光は基幹産業の一つと位置付けられています。観光によるまちづくりを戦略的に進めるにあたって、観光が地域経済にどのような影響を与えているかを把握することは不可欠です。国や道が収集している既存のデータに基づいて計算したものもありますが、江差町の重要な観光コンテンツである「文化」に関わるデータがないなど、必ずしも江差町の特性を反映していません。

このプロジェクトでは、「江差町の、江差町による、江差町のための」データ収集を実現するため、調査の企画や調査票の作成段階から、江差町役場、観光事業者を中心とする町民の皆さんの間の合意形成と協働作業に時間をかけました。皆さんの積極的なご協力のおかげで、2021年5-6月にかけて調査を行うことができました。ここでは調査結果の概要とこのプロジェクトの意義についてお知らせします。

町役場追分観光課のご協力により、観光に関わる「宿泊」「飲食」「旅客輸送」「旅行代理店」「文化」「スポーツ・娯楽」「小売」の7分野から100事業所を選定し、郵送調査を実施しました。42事業者から回答を得ることができました(回収率42%)。回答していただく際には、新型コロナウイルス感染症の世界的まん延が始まる前の2019年の数値を記入していただきました。

調査の結果、39事業所(有効回答数)の観光による年間売上総額の推計は、約2億3933万円でした。つまり、江差町が観光事業で町外から「稼いでいる」金額になります。江差町の経済にとって重要なことは、この「稼いだ」お金をより多く町内で使うことです。せっかく稼いだお金を町外で使ってしまったら、地域経済への波及効果は落ちてしまいます。外から稼いだお金のうちどのくらいの割合が町内で使われているかを示す指標として「域内調達率」があります。39事業所の平均値は約66%でした。

これらの数字を皆さんはどのようにとらえるでしょうか。多いあるいは少ないと感じる方もいらっしゃるでしょう。売上金額や域内調達率を大きくしていくことも重要なのですが、今回のプロジェクトの最も大きな意義は、江差町独自のデータを町民の皆さんも関わりながら作り出したことにあります。今回の調査の設計には、観光に関わる町民の皆さんの声が反映されています。昨年度実施した町内の関係者への説明会およびワークショップでは、「江差町にとっての調査の意義は何か」、「江差町にとっての観光客の定義は何か」等、江差町にとって重要なデータとはどのようなものなのかについて意見交換が行われました。また、ワークショップの中で「既存の調査で「文化」の分野に関わる観光事業所のデータがない」ことに対する問題意識も提示され、地域にとってどのような価値が重視されているのかについての議論もなされました。このような議論は、江差町

(裏面に続く)

にとって重要な価値を共有し、同じ方向に向かって進むために必要不可欠です。今回作られたデータは、皆さんが作った皆さんのデータです。どう解釈し、次はどこに向かっていくのか、そのために何をするのかを判断する上での参考にされてみてはいかがでしょうか。詳しいデータをご希望の方は、末尾にある古地研究室までご連絡ください。

「第2回ニシンチャレンジカップ」を開催しました！ 担当：古地 順一郎

ニシンチャレンジカップ(NCC)は、日本遺産認定にあたって採択された「江差の五月は江戸にもないーニシンの繁栄が息づく町ー」というストーリーに着想を得た企画で、大きく3つの目的があります。第1の目的は、「ニシンと言えば江差」というイメージを町外に発信することです。第2の目的は、新たなニシン料理や食品を開発することです。第3の目的は、町民の皆さんがニシンに親しみや新たな魅力を感じ、江差のまちづくりの中心的な存在であると認識するきっかけを創出することです。

第1回NCCは、2020年2月に開催しましたが、その後、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できずにいました。その間も学生たちはアイデアを温め続けてきました。2021年度に入ると、江差町役場、江差町民有志の方々、函館校の地域政策学研究室ならびに美術教育研究室で実行委員会を設立して、実施の機会を探っていました。その結果、昨年11月13日(土)、ようやく第2回NCCを実施することができました。新型コロナウイルス感染症の状況が比較的落ち着いている状況を狙って実施したため、準備の時間を十分に取ることができず、関わってくださった事業者の方々や町民の皆さんにご迷惑をおかけした部分もあるかと思いますが、皆さんの献身的なご協力によって学生のアイデアを形にすることができました。心より感謝申し上げます。



今回は、料理とアートを中心にNCCを実施しました。料理部門では「家庭でも作って食べたいと思う料理」をテーマにしました。町内の飲食店の方々が創意工夫を凝らした美味しい料理を考案してくださいました。ここで提供された料理のレシピは、『広報えさし』の2月号に掲載されていますので、ご家庭でもぜひ試してみてください。また、ニシン釜によるニシンの塩焼きも登場しました。アート部門では「海中の商店街」をテーマとした装飾を行いました。町内のお子さんたちが描いた「にしんのぼり」に加えて、お子さんたちが描いた絵をスクリーン

に泳がせる「デジタル水族館」も実施し、お子さんたちが楽しめる空間を演出しました。当日は、STV札幌テレビ放送の「ハレバレティモンディ」の収録が入ったこともあり、多くの方々にご来場いただきました。本当にありがとうございました！2月にNCCのスポーツ版の実施も予定していたのですが、変異株による感染症急拡大で断念せざるを得ませんでした。今年度もNCCを開催するべく町民の皆さんと活動させていただく予定ですので、ご協力とご支援をどうぞよろしくお願い致します！



発行

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター 江差SCプロジェクトチーム(代表 古地順一郎)

〒040-8567 北海道函館市八幡町1番2号 電話：0138-44-4354(古地研究室) E-MAIL: koji.junichiro@h.hokkyodai.ac.jp

※ご意見・ご質問は上記のE-MAILへお寄せください。